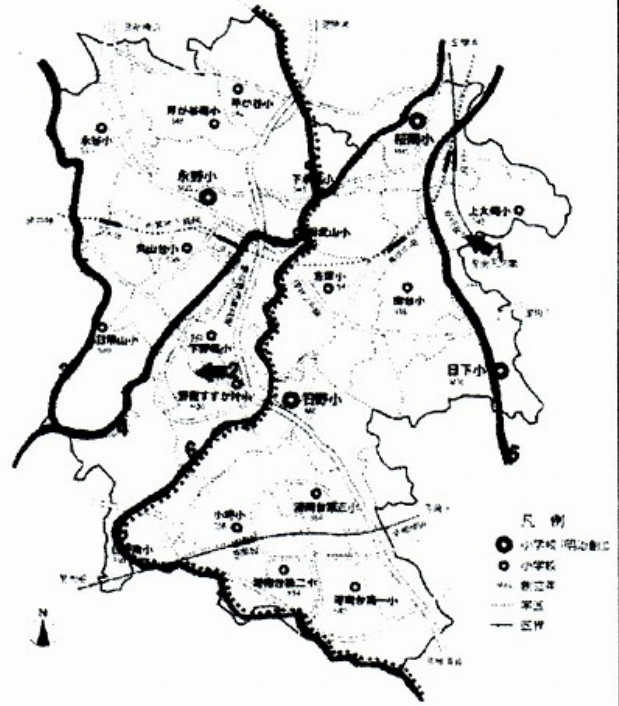


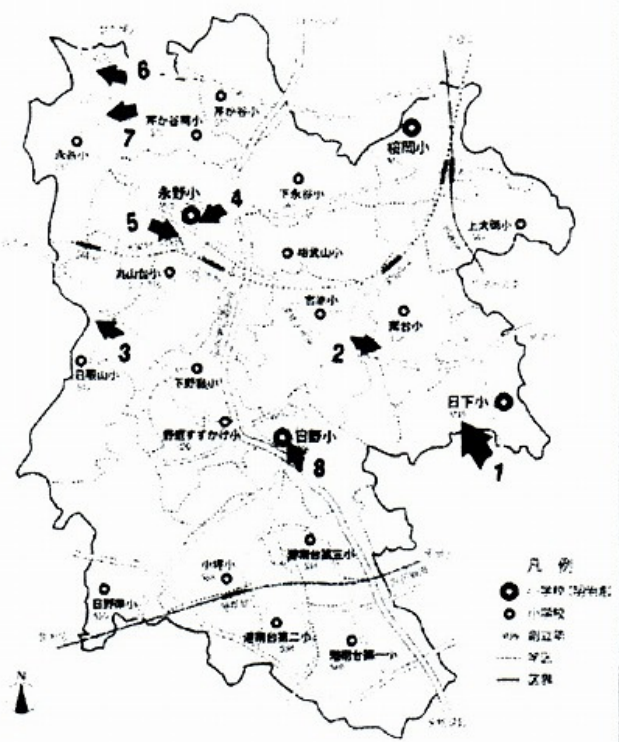
鎌倉幕府の戦略的軍事道路(いざ鎌倉の道)3本の内、2本(中の道と下の道)が当区を通り、この道を警備する北の監視砦(関城)が築かれていた。1242年3代執権泰時の時代に中、下の道とも幹線の変更がありかねさわ道が新しい下の道(房総・常陸と鎌倉を結ぶ道)になる。

- *中の道③と下の道④の伝承
 - ・1189年頼朝は藤原征討に中の道を奥州に。
 - ・北条政子や鎌倉武将が下の道で馬洗川に。
 - ・1333年千葉軍に負けた幕府軍は下の道を大船に勝った千葉軍はかねさわ道から鎌倉に入る
- *1242年執権泰時は朝比奈切通しを完成し下の道はかねさわ道⑤が主幹道に変わる。
中の道も笠間から戸塚経由に変わる。
- *幕府は北の監視所として野庭に関城(砦)②を構築。
餅井坂辺りまで下の道周辺は和田一族が守備。
和田の乱後は北条本家の支配に移る。
- *武相国境の道⑥も街道として機能。小坪道も生活道としてかなり古い道と思われる。
- *清水橋周辺のやぐら(武士の墓)はこの時期のもの。
- *鹿嶋神社①創建。



鎌倉郡は足利幕府関東管領統治に属し、永谷八郷は宅間上杉(藤原乗国)が領主、居館を置く。野庭は東慶寺領に。後北条の時代相模衆14家の筆頭間宮氏が笹下に築城(笹下城)し、大船玉縄城を拠点にした関東進出の最前線防衛ラインを築く。日野地域は北条早雲の三男幻庵の知行地となる。現在の港南区の基礎を築いた旧家はこの時期に当地に移り住み始め、それぞれの地域開発を進める。

- *宅間上杉(藤原乗国)は伊予殿根④(永野小付近)に居館を持ち、天満宮⑤(天神山は城との説あり)を創建。
- *後北条の強敵、房総の里見氏と杉田沿岸で幾たびか戦闘あり、笹下城①・杉本砦②・笹山砦③(日限地蔵付近)・玉縄城の防衛連絡ラインを構築。
- *平戸バス停付近の高台に北条氏直館⑥(軍事拠点)があったと伝う。後の東海道に幹線道が移って行った。
- *笠原家(大久保)、山野井家・北見家(上大岡・笹下)、田野井家(日野)、臼居家(野庭)、大津家(永谷)など武家が移り住み、その後地域開拓に尽力し、港南区の基礎を築く
- *下永谷に殿屋敷⑦、日野小近くの日野川に御所ヶ谷橋⑧など武人や貴人の存在を想像させる地名が残っている。



鎌倉

室町
戦国